

第1回かわさき教育プラン策定委員会社会教育専門部会論点整理

協議題1 市民が主役の生涯学習・市民活動のあり方について

想定される論点

- ・ 地域における子育て支援と家庭教育のあり方
- ・ 子ども（青少年）の社会体験活動と地域社会の係わり方
- ・ 青年の自立・就業支援と生涯学習
- ・ 地域人材・ボランティアの生涯学習活動への参画・人材活用
- ・ 学校と地域の協働・融合への仕組づくり
- ・ 市民参加のネットワークシステム（地域教育会議）の検証
- ・ 生涯学習情報（講座・施設・人材等）提供と相談のシステムの再構築
- ・ PTA・女性団体・青少年団体・スポーツ団体のあり方
- ・ 総合型地域スポーツクラブの運営
- ・ 川崎市におけるプロスポーツ支援の方策
- ・ 自然や文化財の保全と開発と市民活動
- ・ 生涯学習に係る出資法人の運営
- ・ 生涯学習における人権共生教育（新たに追加した論点）
- ・ 生涯学習における職員の専門性の確保（新たに追加した論点）

委員から出た主な意見

働くお父さんたちのパワーを、地域のコミュニティづくりや子育てをとおした地域づくり、まちづくりまで活用していけるといい。

生涯学習活動には、まちづくりや高齢者の生きがいづくりなどの、様々な波及効果がある。在学・勤労を問わず自分を見出せる場所、相談の機会など、若者を受け入れる地域社会の構築が大事である。

地域教育会議をはじめとした、市民が主役の組織づくりを明確にしていく必要がある。どのような子ども観、地域観をもってプランを考えていくか。

民間企業では、会社だけに生きがいを求めるのではない、という研修体制になりつつある。子育て世代がもっと積極的に学校づくりに参加できる関係というものを進めていく必要がある。

子どもが学校を卒業してしまうと、学校づくりに参加できなくなり、地域との関係性が薄れていく。

地域教育会議はスタイルが古く、若い人たちを惹き付ける仕掛けがない。

大人の社会力が低下しているので、子どもが地域を意識できない。

川崎らしさというものがなく、市への愛着が薄い。

大枠を捉えて構造化をしていくということが、求められている。

地域の人材活用を進めるには、行政側からの仕組み・仕掛けをよく考える必要がある。

生涯学習を活発にするには、行政と成熟した市民によるエンパワーメントが必要である。

ふれあいネットと各市民館のHPの関係を見直す必要がある。

浮かび上がってきた論点

行政区の機能強化を進める中での、市民を主役にした社会教育推進体制を実現させていくにはどうしたらいいのか。

- ・ 地域教育会議の役割と意義を明確にし、より意味のある活動を行っていくための方策(整理も含めて)を考える必要がある。
- ・ 世代・地域ごとの課題を的確に捉える。
- ・ 施設だけをネットワーク化させ、その中で同じような個々の活動を進めていても意味がないので、区を中心としたソフト面でのネットワーク化についても連携や整理について方向性を検討する必要がある。
- ・ 総合型地域スポーツクラブの推進という観点からの地域づくり。
- ・ 効率的で網の目の細かい情報提供システムの構築。

生涯学習の主体として新たな人材を開拓していく必要がある。

- ・ 父親、働く世代が参加しやすい環境づくりを進めるとともに、生涯学習の核として取り込んでいく。
- ・ 子育てを終えた世代が持続的に地域に関わっていくことの意義を明確にするとともに、子どもを学校に通わせていない地域の人、学校づくりへの参加を積極的に推進する体制づくり。
- ・ 青少年の持つ活力を地域に取り込んでいくとともに、青少年のニーズに応えていく。
- ・ 企業や大学の、地域との連携。

協議題2 市民の学習活動の場のあり方について

想定される論点

- ・ 教育文化会館・市民館・スポーツ施設の運営（民間団体・NPO等）
- ・ 地域の市民活動施設としての学校施設の活用（学校施設開放等）
- ・ 市民利用施設の区を中心としたネットワーク
- ・ 子ども利用施設への子どもの運営参加
- ・ 市民の施設利用と受益者負担
- ・ 21世紀の図書館をめざして（新たに追加した論点）
- ・ 博物館経営のあり方（新たに追加した論点）

委員から出た主な意見

社会教育法に縛られない、市民プラザのような施設だと、自由にできることが多い。文化施設は、より積極的なPRをしていくべきである。子どもの参加という視点も重要ではないか。施設のネットワーク化を進めるにあたり、何と何を組み合わせるかは精査する必要がある。施設の運営は、NPOなどに単に委託すればいいのではなく、人の仕組みをどう作るかということが大事。所管局の枠に囚われないネットワーク化が必要である。

浮かび上がってきた論点

行政区の機能強化を進める中での、市民を主役にした社会教育推進体制を実現させていくにはどうしたらいいのか。

- ・ より効率的で利便性の高い施設ネットワーク体制の確立。
- ・ 施設の管理体制についてのみネットワーク化を進めるのか、事業執行においても区を中心とした推進体制をつくっていくのか、ネットワーク化の中身を明確にする。

厳しい財政状況の中で、効率的な施設運営を進めるには。

- ・ 受益者負担という観点での、利用目的等に沿った料金体制の見直し。
- ・ 営業という視点からの博物館等の事業内容の再構築。

施設運営への子どもの参画推進。

- ・ 子どものニーズ把握や、運営審議会等への子どもの参加など、新たな取り組みを検討。

協議題3 生涯学習推進体制のあり方について

想定される論点

- ・ 生涯学習推進関係会議の活性化と充実

委員から出た主な意見

政策決定や様々な提言の機能を担う組織が色々あるようだが、それらをできるだけ体系立てて、それぞれの役割分担と全体の連携を明確にしていく必要がある。

浮かび上がってきた論点

より効率的で機能的な生涯学習推進体制をつくるにはどうしたらいいか。

- ・ 今まで市民館が担ってきた人と人をつなげるコーディネーター的な役割や、市民活動の支援・相談受付といった役割を、区を中心とした大きな視点の中で行う体制をつくっていく。
- ・ 各生涯学習推進会議の連携・整理を進めると同時に、一定の提言力を付加するなど機能を明確にする。